

令和7年度 第2回千葉県スポーツ推進審議会議事録

- 1 日 時 令和7年11月28日（金） 14時00分～15時30分
- 2 場 所 千葉県役所本庁舎（高層棟）2階 XL会議室203
- 3 出席者 （委員）
小川直哉会長、五月女重夫副会長、梅村芳延委員、國吉敏和委員、佐倉和明委員、
高橋薫委員、馬場宏輝委員、利涉敏江委員
（事務局）
堺生活文化スポーツ部長、内山スポーツ振興課長、須長担当課長、山崎課長補佐、
奈良担当課長補佐、内山主査、吉井主査、田口主査、田母神主任主事、大西主事
島田保健体育課主任指導主事
布施公益財団法人千葉県スポーツ協会事務局補佐

4 議 題

- (1) 報告
ア 部活動地域展開について
- (2) 審議
ア 第2期千葉県スポーツ推進計画素案について

5 議題の概要

- (1) 報告
1項目の報告を行った。
- (2) 審議
第2期千葉県スポーツ推進計画素案についてご審議いただいた。

6 会議経過

開 会 14時00分

【山崎補佐】本日の進行を務めます、スポーツ振興課の山崎でございます。なお、本審議会は千葉県情報公開条例により、公開することになっております。本日傍聴者はありません。なお、会議終了後、議事録の作成、議事録の確定を行い、開示されることとなりますので、あらかじめ御了解ください。それでは次第に従いまして、はじめに、小川直哉会長にご挨拶をお願いいたします。

【小川会長】みなさんこんにちは。本日は、お忙しい中、令和7年度第2回スポーツ推進審議会にご出席いただきまして、ありがとうございます。

一昨日、東京デフリンピック2025が閉会いたしました。大会期間中は連日、テレビや新聞で大きく取り上げられ、市民の認知度が高まっているのを実感しております。今回の大会には、81の国と地域から約3000名の選手が参加し、非常に盛大なものとなりました。障害の有無に関わらず、多くの方々が一体となって大会を盛り上げ、共生社会の実現に向けて大きな一歩を踏み出すことができたものと考えております。

さて本日は、報告事項が1件、審議事項が1件となっております。みなさま、ご審議のほど、よろしく願いいたします。

【山崎補佐】ありがとうございました。続きまして、生活文化スポーツ部長堺よりご挨拶申し上げます。

【堺部長】みなさま、こんにちは。生活文化スポーツ部長の堺です。本日はお忙しい中お集まりいただき、誠にありがとうございます。また、日頃より本市のスポーツ行政にご尽力いただき、心より感謝申し上げます。さて、師走を目前にして気温は下がっておりますが、本市のスポーツ界は、ますます熱量が高まっております。

B1リーグに昇格したアルティエリ千葉は、トップリーグの舞台で堂々たる戦いぶりを見せており、千葉ポートアリーナは昨年以上の熱気に包まれております。

またジェフユナイテッド千葉は、いよいよ明日、シーズン最終戦を迎え、J1昇格への期待が高まっております。市民の皆様とともに、その瞬間を心待ちにしているところです。

9月に開催された「ジャパンビーチゲームズフェスティバル千葉」では、いなげの浜を舞台にビーチスポーツの体験イベントが行われ、市民の皆様が気軽にスポーツに親しむ機会となりました。加えて、10月に開催された「パラトライアスロンアジア選手権大会」では、国内外のトップアスリートが集結し、障害の有無を超えてスポーツの魅力を共有する素晴らしい大会となりました。こうした大会やイベントを通じて、スポーツの魅力を広く発信し、市民の交流や地域の活性化にも大きく寄与できたものと考えております。

また、今年6月に改正されたスポーツ基本法では、気候変動への対応や、パワハラ・セクハラのない環境づくりについても表現されたところです。前回審議会では「第2期千葉市スポーツ推進計画」の基本的な方向性について、委員の皆様から貴重なご意見をいただきました。本日は、その骨子をベースに、各取組み等を具体的に落とし込み作成した「素案」について皆様にご審議いただきたいと考えております。本市のスポーツ行政をさらに前進させるため、忌憚のないご意見をお寄せいただければ幸いです。

本日はどうぞよろしくお願い申し上げます。

【山崎補佐】それではこれからの進行につきましては小川直哉会長にお願いいたします。

【小川会長】それではまず、「議事録署名人」についてですが、先程、進行の方から説明がありましたように、本審議会は会議の公開がされているわけでございます。議事録の確定方法につきましては、「あらかじめ指名された委員」による承認にしたいと思いますが、よろしいですか。

【各委員】<異議なし>

【小川会長】それでは、議事録署名人として、馬場委員にお願いしたいと思っております。よろしくお願い申し上げます。

【馬場委員】<了承>

【小川会長】それでは、会議次第に従いまして、進めてまいりたいと思っております。最初に、報告事項1の「部活動地域展開について」、保健体育課よりお願いします。

【島田主任指導主事】<資料1により報告>

【小川会長】ありがとうございました。それではただいまの報告で何かご質問等ありますか。

【高橋委員】実証事業での指導者は、学校の先生が多いのでしょうか。また、学校の先生以外の指導者には、どのような方がいらっしゃるのでしょうか。

【島田主任指導主事】指導者は約220名おり、そのうち学校以外の地域指導者が140名、兼職兼業されている方が80名となっております。地域指導者には、大学生、会社員、定年退職された方など、さまざまな方が参加されています。

【五月女委員】自分の学校ではない地域クラブに参加している生徒については、引率がないと思いますが、その場合、事故等が発生した際の保険はどのようになっていますか。

【島田主任指導主事】生徒には、地域クラブに参加申し込みをする段階で、保険に加入してもらっていますので、移動時などの事故については、その保険が適用されます。今年度については、受益者負担は徴収しておりません。

【馬場委員】本件は報告事項なので、詳細な質問は控えるべきと思いますが、また会議の場に出席していないことから、発言が失礼な言い方になりましたらすみません。

まず、将来像の検討をこれから行うという点については、令和8年度から改革実行期間となるにもかかわらず時期的に遅く、市民に対して無責任ではないかと感じております。また、地域クラブの運営を民間事業者へ委託する方針については、既存のスポーツ協会、競技団体、スポーツ少年団、総合型地域スポーツクラブなど、すでに地域に存在するスポーツインフラを活用すべきだと考えております。地域のスポーツ文化を継承するという観点からも、民間事業者への委託の仕方は重要であると思っております。

さらに、平日の活動展開について「他市の動向を注視」とされていますが、既に多くの参考事例が存在しており、対応が遅れている印象を持っています。平日と休日を切り分けるのではなく、平日を含めた全体のビジョンを示さなければ前に進まないのではないかと考えています。

参考として、私が市原市で携わっている部活動地域展開の取組について紹介します。市原市で「部活動移行の推進ビジョン」を策定しまして、広報誌で特集を組まさせていただきます。また、市長との対談動画も公開しており、どなたでもご覧いただけます。一般向けシンポジウムの開催なども実施しました。具体的な中身を少し紹介しますと、指導者向けには、全競技共通のベースプログラムや競技別プログラム、翌年度以降の補完講習を整備しております。さらに、技術指導者だけでなく、クラブ運営・支援者向けの講習会もスタートします。

また、市独自の地域クラブ認証基準を設け、公正性やコンプライアンスを含む運営マニュアルも整備しています。将来的には中学生年代のクラブを総合型クラブへ発展させることを目標としています。

加えて、経済的理由で地域クラブでのスポーツに参加できない子どもに対しては、行政の役割として遊び場を提供することも位置付けています。スポーツ参加人口の拡大を主要な目標とし、競技力向上については一定の環境が整いつつあるため、行政がすべてを担保する必要はないと考えております。

千葉市にも、この取り組みを参考にしながら取り組んでいただきたいと考えております。以上、失礼な点がございましたらお詫び申し上げます。

【小川会長】馬場委員からのご意見を参考にしながら、今後の取り組みを進めていただきたいと思えます。

【佐倉委員】今後の課題として挙げられている「指導者の確保」についてお伺いします。休日の完全地域展開を実施した場合には、指導者数は1,000人必要とされていますが、平日を含めた場合には、どの程度の指導者数が必要になると想定されていますか。

【島田主任指導主事】現時点では、平日を含めた場合の必要指導者数について踏み込んだ検討が出来ておらず、見込みは立っておりません。

【小川会長】ありがとうございました。その他、ご質問・ご意見等ございますでしょうか。

【各委員】<なし>

【小川会長】それでは、以上で報告は終了とし、審議に入ります。

第2期千葉市スポーツ推進計画素案について、スポーツ振興課よりお願いいたします。

【田口主査】 <資料2により説明>

【小川会長】 ありがとうございます。ただいま説明がありました「第2期千葉市スポーツ推進計画素案」について、ご質問・ご意見をお願いします。

【佐倉委員】 まず1点目ですが、新しい推進計画について、今回の計画はこれまでの施策を多く継承している印象を受けています。過去10年間の取り組みを十分に振り返ったうえで、場合によっては政策を終了するなど、より大胆な改革を盛り込むことで、迫力が出て魅力が増すと思っているのですが、いかがでしょうか。次に2点目ですが、少年スポーツ連盟とスポーツ少年団の在り方について、対象が重複しているのでは、統合などの見直しを検討しているのか、どうお考えでしょうか。3点目として、市民に新しい推進計画を説明するにあたり、前回計画からの変更点が分かりやすく整理された資料があるとありがたいと考えます。

【内山課長】 まず、1点目の、過去の取り組みの振り返りや施策の大胆な見直しについてですが、推進計画は市や国の上位計画を踏まえて作成しており、上位に基本方針があり、その下に少し細かくした施策の方向性、そして各取り組みが紐づいていくという構造となっています。ご指摘の「大胆な廃止」といった部分は計画上では出しにくい面がありますが、個別の取組レベルでは、新たに生まれるものや終了するものもあり、きちんと現場の状況を踏まえて適宜見直しを行ってまいります。2点目の少年スポーツ連盟とスポーツ少年団については、小学生を対象とする少年連盟と、小中学生を対象とする少年団の間で、活動対象が重複していることは認識しております。長年続けていただいているそれぞれの活動フィールドがありますが、一方で少子化が進む中、受け皿が多すぎるのではないかと課題も把握しております。スポーツ協会を含め関係団体と協議し、子供たちにとってより良い環境となる方向性を検討してまいります。最後に、市民向けの説明については、計画の概要版などを作成しホームページに掲載する予定ですので、そちらをご参照いただければと思います。

【馬場委員】 部活動の地域展開は、市のスポーツ環境を変える良い機会であると考えています。市原市では、地域展開をきっかけに「生涯スポーツ社会」を実現するという言い方をしており、私としては、従来の部活動の在り方は、結果として生涯スポーツ社会の実現を十分に後押しすることができなかったのではないかと感じています。したがって、この部活動の地域展開が、生涯スポーツ社会の実現に繋がると考えており、これが最も大きなアピールポイントであると思っています。その際には、中学生だけではなく、上の年代も下の年代も含めて捉える必要があり、スポーツ少年団や各連盟、部活動、中高生のスポーツ環境など、現状の体系を大きく見直すチャンスでもあります。せっかく全体をガラッと変えられる機会ですので、個人的には、この点こそが目玉になるのではないかと考えておりました。今回の計画には反映されていませんが、こうしたビジョンが盛り込まれると良いのではないかと思います。すみません、これは意見ですので、回答は不要です。

【小川会長】 別紙の「推進計画に位置付ける主な取り組み」の中にある「部活動地域展開に関する人材育成」ですが、これは教育委員会をバックアップするという意味でしょうか。別に独立して実施するという意味ではないですね。

【内山課長】 教育委員会とは別に独立して行うものではなく、地域展開を市として一体的に進めていくという意味です。これまで部活動と地域のスポーツ団体は、別々に動いてきましたが、地域展開が進むことで、各大会の運営やチームの形態なども、学校と地域が連携して再

構築していく必要があります。また、我々スポーツ振興課としては、競技団体のみなさまと向き合う立場ですので、競技団体と協力しながら指導者の登録・育成についても進めていきます。地域展開に関する内部会議にはスポーツ振興課も参加しており、各地の先行事例を参考にしながら、教育委員会と連携して取り組んでまいりたいと考えています。

【小川会長】ZOZO マリンスタジアムの移転と、アルティアリー千葉の新アリーナの建設について、現時点でお答えいただける範囲で状況を教えてください。

【内山課長】ZOZO マリンスタジアムについては、建替えを検討しており、幕張メッセ駐車場を候補地として、屋外球場を中心に周辺に賑わいを創出するという基本構想を示しています。今月になって、ロッテさんから屋根の設置について検討してほしいとの相談があり、夏の暑さ対策等を踏まえ、全天候型の可能性も含めて検討を進めている段階です。アルティアリー千葉さんの新アリーナについては、幕張海浜公園Aブロックを候補地として検討が進められています。検討主体はアルティアリー千葉と資本提携を行っているヒューリックであり、市としては新アリーナの建設を支援する立場から、課題解決に向けた調整を行っているところです。

【梅村委員】成果指標の評価方法についてお伺いします。多くの施策を実施する中で、それぞれの施策がどの程度成果に寄与したかを示すのは非常に難しいと感じています。最終的には、「スポーツをする・見る・支える」という3つの視点の中で、どの施策がどれだけ貢献したのか示せると分かりやすいと思いますが、現状では判断が難しいのではないかと考えています。現段階で可能な評価方法や具体的な工夫があれば参考としてお聞きしたいと思います。

【田口主査】ご指摘のとおり、施策と成果指標を直接結びつけて評価することは難しい面があります。市民意識調査では5年に1回、実施率や観戦率などを質問していますが、これとは別に、毎年WEB アンケート調査も行っており、質問内容を工夫することで角度を変えた把握ができるようにしています。直接的な因果関係を確定することは困難ですが、関連性を探る形でスポット的に質問することは可能です。WEB アンケートは毎年設問を変更できますので、各施策に関連した数値を追いかけることもできると考えています。

【高橋委員】意見として申し上げます。「誰もがスポーツを続けられるための安全や安心をつくる」という施策の方向性に関連して、特に屋外スポーツでは、夏場にスポーツが困難になる状況が深刻化しています。実際に、今年はジェフのスクール活動が7～9月の3か月間で雷や豪雨により65回中止となり、アカデミーでも21回中止となりました。振替が困難なほどの回数であり、非常に深刻な状況だと感じています。一方で、世界サッカー連盟(FIFA)は、2040年までにカーボンオフセットを実現する方針を掲げており、各国リーグやクラブにも通知が出されています。我々も来年度から具体的な取組を開始する予定ですが、今回の計画は2035年頃までを見据えたものだと思いますので、スポーツ施策の中に環境への視点を取り込むのか、あるいは環境政策側でスポーツへの影響を考慮していただくのか、いずれにしても検討が必要だと考えています。スポーツに限らず、将来的には子どもが屋外で遊べなくなる可能性もあると感じており、10年後に手遅れとならないよう、どこかで意識しておくべきだと思います。

【利渉委員】参考までに情報提供させていただきます。本日、午前中に参加した別の会議で、スポーツ庁より第4期スポーツ基本計画の策定に向けて、国のスポーツ政策として取り入れてほしい方向性が紹介されましたので、簡単に共有いたします。まず、政策に盛り込むべき3つの観点として、以下が示されたとのこと。1つ目は、スポーツそのものが持

つ価値、すなわちスポーツが人に喜びをもたらすという視点。2つ目は、スポーツを活用して社会活性化や地域課題の解決、持続可能な社会の実現に貢献する価値。3つ目は、年齢・性別・障害の有無にかかわらず、すべての人がスポーツの価値を共有できるウェルビーイングの視点です。その中で具体的な取組として挙げられたのは次のとおりです。1つ目は、部活動の地域展開を含む、子どもたちが将来にわたり多様なスポーツに親しめる環境の充実。2つ目は、全ての人々が継続的にスポーツに取り組める生涯スポーツ環境の整備、および共生社会の実現。3つ目は、アスリートの強化・支援に関する環境整備。4つ目は、スポーツを活用したまちづくりや成長産業化、経済活性化。5つ目は、環境問題への貢献。6つ目は、スポーツ団体のガバナンス強化です。せっかくの機会でしたので紹介させていただきましたが、今回提示された素案を拝見したところ、これらの観点は十分に盛り込まれていると感じました。そのため、千葉市さんが示された大きな方向性は良いのではないかと考えております。

最後に1点質問ですが、「スポーツ活動を支える人材育成」については、講習会やセミナーなど、主に指導者育成に重点が置かれている印象を持ちました。一方、社会をより良くするための政策、すなわちスポーツを活用した地域活性化やまちづくりに取り組む人材には、また別の知識やスキルが必要になると思っております。こうした領域の人材育成について、今後検討されているかどうかお聞かせいただきたいと思っております。よろしくお願いたします。

【堺部長】 先ほどの高橋委員の環境負荷に関するご指摘とも関連しますが、スポーツの多様な価値や社会課題の解決、インクルージョンなどの視点は非常に重要であり、私たちも意識しながら計画を作成してきました。ただ、計画の中でそれらの視点が前面に出ず、また対応する具体的な事業が見えにくいことが、分かりづらさにつながっているのだと思います。計画本体の2ページ「策定の趣旨」には、スポーツの価値やウェルビーイング、地域社会への貢献、環境配慮など、今ご指摘いただいた観点は総合的に記載されています。しかし、そこからさらに掘り下げた説明が不足していることは認識していますので、どこかのパートで補強できないか検討したいと思っております。事業レベルまで落とし込むのはすぐには難しいかもしれませんが、千葉市を取り巻く状況として記述できる点は整理したいと考えています。また、スポーツを通じた地域活性化に取り組む人材育成についてのご質問ですが、直接それを目的とした研修等の事業は現時点ではありません。ただ、「スポーツを中心に繋がるまち」の考え方の中で、スポーツを核としたまちづくりや、地域・広域での活動が広がる中で、多様な人材が関わり、その過程で育っていくというイメージを持っています。この点が現状では見えにくく、申し訳ありませんが、そのように考えて進めております。

【利渉委員】 ご説明ありがとうございました。全体的に、今回の素案は先ほどご紹介したスポーツ庁の考え方も十分に網羅されており、方向性として問題ないと考えています。今後、具体的な施策に落とし込む際には、ぜひ今日お話ししたポイントを意識しながら検討いただければと思います。また、人材育成についてですが、指導者育成に偏ると、スポーツのまちづくりに必要となる別のタイプの人材が不足する可能性があると感じています。ご説明いただいたように、さまざまなソフト事業を進める中で自然に生まれてくる側面もあるとは思いますが、今後は「スポーツを活用した地域活性化」や「まちづくりに取り組む人材」といった観点も、併せて考えていただけると良いのではないかと感じました。

【小川会長】 他にご意見ございますか。

【各委員】 <なし>

【小川会長】 それでは、本日の意見を踏まえまして、事務局で素案を検討して、また次回の審議会で最後の審議を得て策定ということにしたいと思います。それでは、以上を持ちまして、審議を終了いたします。進行を事務局にお返しします。

【山崎補佐】 小川会長議事進行ありがとうございました。それでは、これをもちまして、「令和7年度第2回千葉市スポーツ推進審議会」を終了致します。ありがとうございました。

閉 会 15時30分